



市民活動の 新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地です。野を広げている。フアイザーではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれずに、活動のユークスと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2002年度の助成対象となった各プロジェクト（左頁参照）を中心に、9回連続（今回は第6回）でリポートする。



写真上/今夏発行の「IRIS」2号の編集会議をするスタッフたち。「自分たちの思いを伝えたい」という情熱を共有するゆえに、編集方針をめぐって熱い議論を交わす。写真下/古くから不登校児、ひきこもり者をサポートしてきた東京シュレの理事長・奥地圭子さん（右）とスタッフの本間周子さん

特定非営利活動法人 東京シュレ ひきこもり当事者による 雑誌発行プロジェクト

(東京都)

生きにくさを感じている 人たちに向けてひきこもり 当事者から発信する

雑誌「IRIS」（イリス）
ギリシャ語で「虹」の表紙には「生きにくさを感じている私たちからあなたへ」という読者への呼びかけが掲げられている。企画から取材・執筆・編集にいたるまでの一切を、ひきこもりの当事者たちによって刊行された雑誌である。創刊号の目次には、座談会「当事者が語るひきこもり」、当事者手記、親の手記、児童精神科医・渡辺位さんへのインタビュー、映画「home」を観て・意見交換会、さらには創作、評論、本と音楽のおすすめコーナーなどが並んでいる。本文124ページ。「雑誌づくりの経験者は一人もない。みんな手探りで作った」とは思えないほどの堂々たる出来ばえだ。



発行元である東京シュレは不登

校の子供や若者たちのためのフリースクール。その活動は18年に及んでいる。2年前から「土曜サロン」「木曜サロン」という20代以上のひきこもりの人たちの交流の場を設けたところ、参加者たちから「自分たちの考えや経験をもっと世の中に受け止めてもらうために雑誌を作りたい」という声があがった。

「当事者だけで本当にできるのかと最初はびっくりしましたが、彼らが協力して1冊の雑誌を作ることで社会とつながり、共に楽しさや苦しき、達成感を味わうことができる」とすればこれは非常に意味のあること」と、奥地圭子理事長は全面的にバックアップすることにした。「ひきこもりの人たちが否定するような世間の根強い偏見を変えていくために、当事者たちが自己を表現し、その存在を積極的に発信していきたいという。こんな発信はこれまでなかった。素晴らしいことです」



当事者たちが企画から取材、編集、校正まで一貫して作りあげた雑誌「IRIS」創刊号。当事者が抱えている「生きづらさ」を知ってほしいという願いが込められている

編集会議ではもめ事が続出した、作業は本当に大変だった、作るのに精一杯で読む人のことはあまり考える時間がなかった——など編集に携わった当事者たちの感想はさまざまだが、「終わってみれば楽しかった」という充実感も共通している。ある当事者にとっては「1冊の雑誌を作ることで、どうして自分はひきこもりなのかという認識が自分の中で深まった気がする」と、自己と向き合う新たな機会にもなったようだ。

当事者やその家族はもとより、生きづらさを感じている多くの人々へのメッセージが込められたこの雑誌は、年4回発行の計画。現在、夏発行の2号に向けて、編集スタッフたちは奔走している。

**2002年度
助成対象プロジェクトの
団体名・活動内容・
主な活動地域**

1	重度知的障害者の ファイザー事業の創設 特定非営利活動法人 障害者家族地域生活支援事業所 フリアムト勝(北海道)
2	精神障害回復者 小規模共同作業所マップ 特定非営利活動法人 札幌作連(北海道)
3	商店街で活動する精神障害者の ピアサポート支援事業 特定非営利活動法人 SAN Net青森(青森県)
4	青年とまちの人とがふれあう場 「とらいスペース」の開設 特定非営利活動法人茨城NPO センター・コムズ(茨城県)
5	ひきこもり当事者による 雑誌発行プロジェクト 特定非営利活動法人 東京シュレ(東京都)
6	女性アルコール依存症者 サポートセンター事業 特定非営利活動法人 ジャパンマック(東京都)
7	ミャンマー/ドーボン郡区 障害者支援事業 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン(東京都)
8	プライマリヘルスケア・アプローチ による路上死のない街へ 新宿連絡会医療班(東京都)
9	摂食障害者の自立と成長のための ピアサポート事業 日本アノキシア・プリミア協会 (東京都)
10	病気の子どものための 情報発信とネットワーク構築事業 病気子どもネット・京都(京都府)
11	知的障害者の性の ワークショップ事業 特定非営利活動法人エンパワメント ・プランニング協会(大阪府)
12	小児がん患者、家族の 精神的サポート体制の確立事業 特定非営利活動法人 エスビュロー(兵庫県)
13	精神障害者ピアヘルパー等 養成事業 兵庫県高齢者生活協同組合 (兵庫県)
14	在日外国人高齢者の地域における 居場所づくり事業 神戸定住外国人支援センター (兵庫県)
15	芸術とヘルスケアの関わりによる まちづくり事業 アートステーションどんごや(宮崎県)

*他に、12団体が継続助成対象としてプロジェクトを行なっています。

**【ファイザープログラム】
心とからだのヘルスケアに
関する市民活動支援**

- 2003年度 募集要項**
1. 募集期間: 2003年6月16日～7月18日
 2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
 3. 助成の期間: 2004年1月1日～12月31日(1年間)とします
 4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
→ おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療が受けられない人たちの心身のケアを支援する活動
→ 外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
 - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
→ 身体障害、知的障害、精神障害などの人々、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
 5. 問い合わせ先:
ファイザープログラム事務局
プログラムの詳細は、こちら
<http://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/philanthropy>



写真上/今回のプロジェクトに関わった当事者たち。作業所にたどり着くまでの悩みや体験をふまえ、プロジェクトの進め方などをみんなで話し合っている。写真右/「札幌で行われる『秋の健康まつり』には間に合わせたい」と語る宮田会長



**特定非営利活動法人 札幌作連
(札幌市精神障害回復者小規模共同作業所連絡協議会)**

**精神障害回復者
小規模共同作業所マップ
(北海道)**

**精神障害の当事者が集めた
情報をホームページと
出版物で公開**

現在、札幌市には市から補助金を受けている所だけでなく、無認可の所も含めて、精神障害者のための小規模作業所が50か所ある。市内や近郊に点在するそうした作業所が互いに連携協力し、精神障害回復者のための地域活動を支援しようという目的から設立されたのが、札幌作連である。発足は15年前、最初は7、8か所からはじめて、現在では41か所が加盟している。

しかし50か所の作業所があるといっても、これまで当事者が知ることができたのは住所と電話番号ぐらいで、そこで何をどんなふうに行っているかという情報はほとんどなかった。実際、今回のプロジェクトに携わっている当事者の一人は、「一括りに作業所といっても、みんな同じことをやっているわけではないんです。機材の作業をしている

ところもあれば、陶芸やウェブの制作をしているところもあります。自分はPCが好きだったので、関連した作業ができてすごく楽しい」という。「作業所というのは友だちをつくったり、自分を知ることができたり、仕事をすることで少ないけど給料をもらえて、少し胸を張ることができる。仲間とつながれるという意味でもいい場所なんです。そういう情報が手に入れば、当事者や家族はどれだけ助かるかわりません」

そこでスタートしたのが「札幌市社会資源マップ」を作るというプロジェクトである。この資源マップは全作業所について住所・電話はもちろん、職員やボランティアの数、そこに通っているメンバー、諸設備の状態、作業内容、行事やレクリエーション活動など、当事者や家族が知りたいと思

っている情報をすべて網羅する。まずホームページを立ち上げて情報提供を行い、9月頃には本にして出版する予定である。実務を担当しているのは「ヨベル」のほん工房「てくてく」の3作業所の当事者たちで、各作業所の取材はほとんど終わっており、今はホームページの編集作業に追われているところだ。宮田英次札幌作連会長は「何よりも当事者自身がプロジェクトを推進していることが画期的。当事者だけで行って取材をし、その場の雰囲気を見て、聞いてまとめる。取材という体験を通して自信をとりもどし、障害者に対する理解も広がっていく。当事者だからわかる情報は他の障害者にとっても貴重です。作業所だけでなく地域の支援センターや自助グループなどの情報も掲載していきたい」と考えている。



不登校やひきこもりの人々にとってインターネットは有効な情報源だ。当事者が取材した情報をまずはホームページに入力する